

## 第4章 学生の受入れ

本章では、本学部/大学院（研究科）における入学者の受入れ方針、入学者の選抜、および入学状況について述べる。なお、入学試験では、入学年度を冠として名称がつけられるため、入学試験名と入学試験実施年度は1年異なるので留意のこと（例：平成29年度入学試験（平成28年度実施））。前回の報告書では、平成25年度入学試験（平成24年度実施）までを報告済であるが、本章では、一部のデータを除き、平成26年度入学試験と実施年度ベースで考えた平成27～29年度入学試験までの4年間の実績について報告する。

### 4-1. 入学者の受入れ方針

（学部のアドミッション・ポリシー）

本学部では、一般入試では学部全体および各学科別のアドミッション・ポリシーを定めている。また、特色入試では、学科別のアドミッション・ポリシーを定めている。これらのポリシーは「京都大学一般入試選抜要項」、「京都大学一般入試学生募集要項」、「京都大学特色入試選抜要項」、「京都大学特色入試学生募集要項」、「京都大学 大学案内一知と自由への誘い」、「京都大学農学部ガイドブック」、および京都大学ホームページ（HP）と本研究科／学部 HP に公表し、受験生に広く周知を図っている。

（オープンキャンパス）

全学のオープンキャンパス（8月第2週）の一環として、本学部では学部企画を実施している。その学部企画では、学部全体の説明、学科紹介、各学科別のミニレクチャー、見学ツアー、個別相談などを行っている。毎年、700名程度の参加がある（表4-1）。ただし、参加希望者は、はるかに多く、対応しきれっていない現状はある。なお、学部企画では、「京都大学 大学案内一知と自由への誘い」、「京都大学農学部ガイドブック」を参加者に配付し、直接的なポリシーの周知に努めている。

（大学院のアドミッション・ポリシー）

本大学院では、全体のアドミッション・ポリシーが定められ、「募集要項」、「京都大学農学研究科ガイドブック」、「学修要覧」および京都大学 HP と本研究科／学部 HP で公表されている。

（大学院入試説明会）

大学院入試説明会（毎年2月の第3土曜日に実施）を実施している。説明会では、研究科全体の説明会と各専攻別の説明会を行っている。また、「京都大学農学研究科ガイドブック」を参加者に配付し、アドミッション・ポリシーの周知に努めている。また、専

攻、あるいは専攻内の系で、独自に入試説明会の実施している例もある。

### [分析評]

学部、研究科ともにアドミッション・ポリシーが明確に定められ、公表周知されている。また、オープンキャンパス、大学院入試説明会など受験生の募集活動も精力的に実施されている。

### [資料]

○京都大学一般入試選抜要項 ○京都大学一般入試学生募集要項 ○京都大学特色入試選抜要項 ○京都大学特色入試学生募集要項 ○京都大学大学案内「知と自由への誘い」  
○ガイドブック（学部・大学院） ○農学研究科／農学部ホームページ

## 4-2. 入学者の選抜

（学部の入学者選抜）

本学部の入学者選抜は、全学体制で実施される一般入試、学科別に実施される特色入試、農学部が独自に実施する私費外国人留学生特別選抜などにより行われている。

### ① 一般入試

一般入試は、大学入試センター試験（1月）と個別学力検査（2月下旬）からなり、アドミッション・ポリシーに沿った幅広い視野をもつ学生を選抜するために、センター試験では国語、地歴あるいは公民、数学、理科（2科目）、外国語の計5教科7科目、個別学力検査では国語、数学、外国語、理科（2科目）の計4教科5科目を課している。なお、試験問題の適切性は全学的な視点から京都大学入学者選抜方法研究委員会（平成28年8月より、京都大学入学試験企画・研究専門委員会に移管）、学部の試験科目や配点の妥当性は学部教務委員会で検討を行っている。一般入試では、農学部を志望する全受験生が同じ科目試験を解答し、志望および入学試験の成績によって、各学科への合格者の振り分けを行っている。なお、従来、受験生には、入学願書に第1～第3志望の学科の記載を求めていたが、平成28年度入学試験（平成27年度実施）から、第1～第6志望の学科（全学科）の記載を求めることに変更している。これに伴い、学科別の定員管理から、学部全体での定員管理に移行している。

### ② 特色入試

多様な学生の受入れ（一般入試で確保の困難、かつ特徴のある学生の受入れ）、および受験生の受験機会の多様化の観点から、全学的な方針にしたがって、平成27年度より特色入試を実施した。平成28年度特色入試（平成27年度実施）では、食料・環境経済学科1学科のみ先行実施し、平成29年度特色入試（平成28年度実施）から、全6学科での実施に踏み切っている。特色入試は、第1次選考（書類審査）（11月）、第2次選考（小論文試験、面接試験、口頭試問（学科により異なる））（12月）と大学入試センター試験

(1月) からなり、一般入試実施前の2月上旬に合格者を決定している。

### ③ 私費外国人留学生特別選抜

私費外国人留学生特別選抜では、日本留学試験、TOEFL-iBT、本学部独自に出題する理科試験(2科目)および面接試験(2月下旬)により、本学部で学ぶ基礎的な学力とコミュニケーション能力を判定し、合否を決定している。

### ④ 日韓共同理工系学部留学生プログラム

本学部では、日韓共同理工系学部留学生プログラムによる韓国からの留学生を平成14年度から現在に至るまで、学科ごとに毎年若干名を受け入れている。平成28年度第2次第7期生受入れからは、学部教務委員会においてより優秀な韓国人留学生を受け入れることができるように受入条件を改定している。

#### (学部の転学部・転学科制度)

学部の入学者選抜では、学科別に合格者(入学者)を決定、各学科で4年一貫教育を実施している。入学後の学生の志望の変化に応えるべく、3年次への進学時に転学科制度を設けており、若干名の転学科を許可している。転学科の許可は、入学試験時の成績、学業成績、面接により判断している。また、転学部(転入、転出)制度も設けている。〈表4-2〉に、転学部・転学科の状況をまとめた。

#### (大学院の入学者選抜)

本大学院(研究科)の入学者選抜は、研究科独自で実施する一般選抜、社会人特別選抜、私費外国人留学生特別選抜により、各専攻別に修士課程入学者、博士後期課程編入学者を決定している。

#### ① 一般選抜

一般選抜(修士課程)は、英語試験、専門科目(2科目)試験、および面接試験からなり、1次募集を8月下旬に、2次募集(1次募集で所定の定員数に満たない場合)を1月下旬に実施している。英語試験では、生物、化学、物理、社会科学の4分野から出題の研究科共通問題を課して、農学研究にとって必要な英語読解力を判定している。なお、平成29年度入学試験(平成28年度実施)から、2次募集の英語試験は、受験生の多様化(他大学・他学部からの受験生の増加)を企図して、英語検定試験成績(TOEFL-iBT、IELTS)に移行している。専門科目試験と面接試験では、専門分野に関する基礎学力とコミュニケーション能力、学術意欲、科学者倫理性などを判定している。

一般選抜(博士後期課程)は、専門科目(1科目)試験以外は、修士課程の一般選抜(2次募集)と変わるところはなく、1月下旬に実施している。

## ② 特別選抜（社会人特別選抜、私費外国人特別選抜）

特別選抜は、後述の点以外は、基本的に一般選抜と同様であり、社会人特別選抜（修士課程）を8月下旬に、それ以外の特別選抜（社会人特別選抜（博士後期課程）、私費外国人特別選抜（修士課程、博士後期課程））を1月下旬に実施している。特別選抜では、英語試験について専門領域に関する語学力をより詳細に判定するため、専攻独自の出題を課す場合もある。また、社会人選抜（博士後期課程）では、筆記の専門科目に代えて口頭試問により専門学力を判定している。

## ③ 農学特別コース

本研究科では、留学生向けに英語のみで修了できるコース（英語による講義、英語による教育研究指導など）（農学特別コース）を設置している（第10章参照）。本コースの入学者の選抜は、総合的な書類審査（学業成績、研究計画書、推薦状、英語力検定試験成績（TOEFL-iBT、IELTSなど））により実施している。また、本コースは、国費留学生支援制度、国費留学生優先枠（毎年：修士課程5名、博士後期課程5名）とも連動している。

## ④ その他

本研究科入学者で希望する者は、京都大学のリーディング大学院（グローバル生存学大学院連携プログラム、「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラム）や森里海連環学教育プログラムへの参加も可能である〈表4-3〉。

研究科の入学者選抜では、専攻別に合格者（入学者）を決定、各専攻で専門教育を実施している。なお、入学者選抜方法の適切性は、各専攻における検討を経て、研究科教務委員会で審議され、適宜見直しを行っている。

### [分析評]

入学者選抜は適切に実施されており、選抜方法に関する検証と対応を進めながら、よりアドミッション・ポリシーの趣旨に沿うべく継続的に改善が試みられている。

### [資料]

京都大学一般入試選抜要項 ○京都大学一般入試学生募集要項 ○京都大学特色入試選抜要項 ○京都大学特色入試学生募集要項 ○農学部私費外国人留学生特別選抜出願要項 ○農学研究科修士課程学生募集要項（一般選抜、私費留学生特別選抜、社会人特別選抜） ○農学研究科博士後期課程編入学学生募集要項（一般選抜、私費留学生特別選抜、社会人特別選抜）

### 4-3. 入学状況

#### (学部の入学状況)

平成 26～28 年度学部入試（平成 28 年度からの特色入試を含む）の志願者数は、定員 300 名に対して 887 名から 923 名（競争倍率：2.95 倍から 3.08 倍）であったが、平成 29 年度学部入試の志願者数が、779 名（競争倍率：2.60 倍）に落ち込んでおり、今後の動向に注視している〈表 4-4〉。平成 26～29 年度学部入試の全合格者数は、306 名から 314 名（入学定員の 102%から 104%）であり、全員入学している。なお、平成 26～平成 29 年度入学者の女子学生の比率は、35.0%から 35.6%である。平成 28 年度特色入試では、食料・環境経済学科 3 名、平成 29 年度特色入試では、6 学科のうち 4 学科が 3 名、2 学科が 2 名の計 16 名の学生が入学している。

また、国際化を目指し、定員枠外で私費外国人留学生と日韓共同理工系学部留学生を受け入れている。平成 26～29 年度の 4 年間の受入れは、私費外国人留学生：13 名（女子学生：8 名）〈表 4-5〉、日韓共同理工系学部留学生：11 名（女子学生：3 名）である。

#### (大学院の入学状況)

大学院入試（修士課程）では、平成 26 年度には、定員 263 名に対し、入学者数（一般選抜 274 名、特別選抜 29 名、合計 303 名）（充足率：115%）（女子学生の比率：35.3%）であったが、入学定員改定後、平成 27 年度には、定員 303 名に対し入学者数 340 名（一般選抜 297 名、特別選抜 43 名）（充足率 112%）（女子学生の比率：35.0%）であった。特別選抜による外国人留学生（私費と国費）数が増加傾向にある。なお、入学者の内訳は、内部進学者が約 2/3、他大学・他研究科出身者が約 1/3 である。専攻別の充足率を表 4-8 に示すが、ほぼ順調な充足状況である。

博士後期課程の入学者については、平成 26 年度で、入学定員 120 名に対して、82 名の入学であったが、入学定員改定後、たとえば、平成 28 年度で、入学定員 90 名に対して 68 名の入学である〈表 4-9〉。依然として、定員充足率の低迷が続いている。

本研究科では、多様な学生の受入れのために特別選抜、および積極的な留学生の受入れのために農学特別コースを実施している。社会人特別選抜による入学状況を〈表 4-10〉に示す。本選抜は、博士後期課程の充足率向上の一つの対策であることが伺える。また、農学特別コースの入学者の内訳は、以下の通りである。アジア地域を中心に、留学生を受入れに成果をあげている。

#### (農学特別コースの入学者内訳)

年度	人数	国名
平成 26 年度春入学	11 名	ミャンマー、コロンビア、中国、アフガニスタン、インドネシア、タイ、トルコ、フィリピン
平成 26 年度秋入学	25 名	インドネシア、中国、ミャンマー、カンボジア、ケニア、台湾、

		バングラデシュ、スリランカ
平成 27 年度春入学	16 名	アフガニスタン、インドネシア、エチオピア、ケニア、台湾、タンザニア、ベトナム、韓国、中国、マダガスカル
平成 27 年度秋入学	32 名	イラン、インドネシア、英国、ケニア、タイ、台湾、中国、ハイチ、バングラデシュ、ベルギー、ミャンマー、ラオス、インド、スリランカ、タンザニア、マレーシア
平成 28 年度春入学	13 名	アフガニスタン、ケニア、台湾、ナイジェリア、ミャンマー、マレーシア、中国、インドネシア
平成 28 年度秋入学	35 名	カンボジア、タイ、中国、香港、ミャンマー、インド、インドネシア、ケニア、台湾、バングラデシュ、ベトナム

### [分析評]

学部については、直近の志望者数の減少がやや気懸りであるものの、安定した状況で推移しており、適切であると言える。平成 29 年度入試（平成 28 年度実施）から全学科で特色入試が実施された。今後、“各学科で企図した学生を選抜できているか？”の検証と選抜方法の改善が必要である。

大学院修士課程については、志願者数の実態に合わせて定員を増員したが、全体として定員充足率は健全な状況で推移している。一方で、博士後期課程における定員充足率の低迷は、依然として大きな問題として残っている。今後も、本研究科や専攻の PR 活動の推進や大学院入試説明会の充実（時間延長、複数回開催など）をさらに図る必要があると考えている。また、留学生の受入れについては、農学特別コースの継続的な充実によって更なる発展を期したい。

### [資料]

○農学特別コース募集要項 ○大学院入試説明会資料

#### 4-4. 前回の外部評価における主なご指摘とその対応

○博士後期課程の定員削減、精鋭化をしていることから、Comprehensive Exam. の採用など研究デザイン能力の向上をめざした改革が必要ではないか？

◎定員の充足率を改善するために志願者の増加を図った上で、将来性のある人材を選抜する方策を検討していきたい。

○卒業生の進路において、企業でミスマッチを起こしたり、博士後期課程への進学者の減少があったりするのは、農学部・農学研究科の卒業生の希望する将来像と社会が要求するキャリアが合わない傾向にある可能性があります。これは、学生の受入れ、選抜に際して学部学生と大学院生のキャリアパスを明確にして、入学する価値を判断してもらう必要があると考えます。これを明確にすれば、この学校に入れば何が要求され、どの

ような人材になれるかが理解され、ミスマッチの解消が進むと思います。アドミッション・ポリシーに沿った入学試験を行えば、試験秀才だけでなく、養成したい人材像を目指す学生を集められると思います。そこで、正確なアドミッション・ポリシーを作る必要を感じます。

◎平成 29 年度から、3 ポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）の改定を予定している。

○各学科の内容や転学部・転学科の手続きについて、予め十分情報提供しておく必要がある。最近、公務員試験などで、学歴不問で、本人の能力のみで判断する傾向がある。そのような情報を高校などに周知させる必要がある。

◎各学科の内容については、本研究科/学部のHP、オープンキャンパス、ガイドブックなどで周知を図っている。転学部・転学科制度については、ある特定の条件のもとで、これを認める制度であるため、積極的な周知を行っていないが、本研究科/学部のHPやガイドブックなどで、制度の存在を周知したいと考えている。就職活動に関する情報（学歴不問、本人の能力で判断など）の高校への周知は、本研究科/学部として責任の持てる情報ではないので、難しいと考えている。

○留学生の受入れ（とくにアジアからの優秀な留学生）の一層の強化（外国の高校におけるスカウトを含む）が必要である。

◎平成29年度から、全学的な制度としてKyoto iUP（吉田カレッジ）（学部への留学生の受入れ）が実施され、本学部も参画する。

〈表 4-1〉 京都大学オープンキャンパス農学部企画参加者数

	申込者数	参加者数
前期平均 <sup>1)</sup>	760.3	708.7
今期平均 <sup>2)</sup>	771.6	683.6
H26年度	760	662
H27年度	756	688
H28年度	799	701

<sup>1)</sup>H23～H25年度平均

<sup>2)</sup>H26～H28年度平均

〈表 4-2〉 転学部・転学科の状況

	転学部（転出）		転学部（転入）		転学科	
	出願数	転出者数	出願数	転入者数	出願数	転学者数
前期平均 <sup>1)</sup>	1.7	1.0	2.7	0.0	3.0	1.7
今期平均 <sup>2)</sup>	5.3	4.0	1.6	0.0	5.3	3.0
H26年度	5	4	2	0	3	2
H27年度	5	4	1	0	7	2
H28年度	6	4	2	0	6	5

<sup>1)</sup>H23～H25年度平均

<sup>2)</sup>H26～H28年度平均

〈表4-3〉 リーディング大学院等への重複履修者数

	H27年度				H28年度			
リーディング大学院								
（グローバル生存学）	7				9			
（日アセアン双方向人材育成） <sup>1)</sup>	（受入れ）	4	（派遣）	2	（受入れ）	4	（派遣）	1
森里海連環学	32				38			

1) ダブルディグリープログラム(修士課程のみ)

〈表4-4〉農学部入学試験の志願者数・合格者数等

	入学定員	志願者数	合格者数	辞退者数	入学者数			
					合計	男	女	
前期平均 <sup>1)</sup>	300	842.3	315.7	0	315.7	215.3	100.3	
今期平均 <sup>2)</sup>	300	871.8	311.5	0	311.5	208.3	103.2	
H26年度	300	898	314	0	314	204	110	
H27年度	300	923	313	0	313	216	97	
H28年度	一般	297	867	310	0	313	216	97
	特色	3	20	3	0			
H29年度	一般	282	694	290	0	306	197	109
	特色	18	85	16	0			

<sup>1)</sup> H23～H25年度平均（入学年度ベース）

<sup>2)</sup> H26～H29年度平均（入学年度ベース）

〈表4-5〉農学部私費外国人留学生特別選抜志願者数・合格者数等

	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数		入学者数（日韓）	
	人数	（女性）	人数	（女性）	人数	（女性）	人数	（女性）	人数	（女性）
前期平均 <sup>1)</sup>	16.3	(9.7)	15.0	(9.0)	2.3	(1.7)	2.0	(1.3)	1.7	(1.0)
今期平均 <sup>2)</sup>	21.3	(11)	17.8	(9.5)	4.5	(2.8)	3.3	(2.0)	2.8	(0.8)
H26年度	20	(11)	20	(11)	6	(3)	6	(3)	2	(0)
H27年度	20	(8)	16	(6)	4	(3)	3	(2)	4	(1)
H28年度	21	(11)	17	(9)	5	(4)	2	(2)	4	(2)
H29年度	24	(14)	18	(12)	3	(1)	2	(1)	1	(0)

<sup>1)</sup> H23～H25年度平均（入学年度ベース）

( ) = 女性

<sup>2)</sup> H26～H29年度平均（入学年度ベース）

〈表 4-6〉 農学研究科修士課程入学状況

	一般選抜				特別選抜		入学者			
	入学定員	出願者	合格者	辞退者	入学者	私費留学生	国費留学生	計	男	女
前期平均 <sup>1)</sup>	263	429.3	299.0	20.3	278.7	14.3	7.0	300.0	191.3	108.7
今期平均 <sup>2)</sup>	289	391.7	301.7	16	285.7	29.3	11.7	326.7	215.7	111.0
H26年度	263	392	288	14	274	23	6	303	196	107
H27年度	303	409	313	16	297	28	15	340	221	119
H28年度	303	374	304	18	286	37	14	337	230	107
H29年度	303	377	307	11	296	17	7	320	220	100

<sup>1)</sup>H23～H25年度平均（入学年度ベース）

<sup>2)</sup>H26～H29年度平均（入学年度ベース）

〈表 4-7〉 農学研究科修士課程入学者出身別構成

	本学部	本学他学部	国内他大学	国外他大学	計
前期平均 <sup>1)</sup>	216.7	3.0	62.0	18.3	300.0
今期平均 <sup>2)</sup>	214.3	4	71	37.3	326.7
H26年度	209	4	66	24	303
H27年度	225	5	70	40	340
H28年度	209	3	77	48	337
H29年度	236	3	61	39	339

<sup>1)</sup>H23～H25年度平均（入学年度ベース）

<sup>2)</sup>H26～H29年度平均（入学年度ベース）

<表 4-8> 本研究科の専攻別充足率

修士課程

( ) は収容数 = 在籍数

専攻	収容定員 H26 以前	収容定員 H27 以降	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
農学専攻	46	66	158.7% (73)	160.9% (74)	126.8% (71)	98.5% (65)	100.0% (66)
森林科学専攻	90	96	110.0% (99)	117.8% (106)	115.1% (107)	122.9% (118)	129.2% (124)
応用生命科学専攻	96	126	124.0% (119)	128.1% (123)	123.4% (137)	115.1% (145)	104.8% (132)
応用生物科学専攻	100	104	105.0% (105)	114.0% (114)	111.8% (114)	100.0% (104)	105.8% (110)
地域環境科学専攻	96	100	122.9% (118)	116.7% (112)	118.4% (116)	132.0% (132)	137.0% (137)
生物資源経済学 専攻	48	48	89.6% (43)	75.0% (36)	95.8% (46)	131.3% (63)	122.9% (59)
食品生物科学専攻	50	66	142.0% (71)	132.0% (66)	103.4% (60)	101.5% (67)	100.0% (66)

博士後期課程

( ) は収容数 = 在籍数

専攻	収容定員 H26 以前	収容定員 H27 以降	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
農学専攻	33	30	78.8% (26)	75.8% (25)	76.7% (23)	77.8% (21)	83.3% (20)
森林科学専攻	66	61	66.7% (44)	75.8% (50)	91.8% (56)	103.6% (58)	111.8% (57)
応用生命科学専攻	66	61	65.2% (43)	71.2% (47)	72.1% (44)	76.8% (43)	80.4% (41)
応用生物科学専攻	69	63	69.6% (48)	50.7% (35)	65.1% (41)	71.9% (41)	72.5% (37)
地域環境科学専攻	60	55	88.3% (53)	91.7% (55)	96.4% (53)	112.0% (56)	137.8% (62)
生物資源経済学 専攻	33	30	124.2% (41)	112.1% (37)	100.0% (30)	103.7% (28)	104.2% (25)
食品生物科学専攻	33	30	57.6% (19)	51.5% (17)	56.7% (30)	66.7% (18)	58.3% (14)

〈表4-9〉農学研究科博士後期課程への進学・編入学状況

	入学定員	本学からの進学者			編入学者			進・入学者		
		日本人 学生	留学生	出願者	入学者	出願者 (留)	入学者 (留)	合計	男	女
前期平均 <sup>1)</sup>	120	37.0	8.3	19.3	15.7	12.3	11.7	72.7	47.3	25.3
今期平均 <sup>2)</sup>	100	32.3	8.0	22.0	17.3	17.3	16.7	74.3	54.3	20.0
H26年度	120	36	9	26	19	19	18	82	54	28
H27年度	90	33	8	18	15	18	17	73	55	18
H28年度	90	28	7	22	18	15	15	68	54	14
H29年度	90	33	8	13	11	19	19	71	48	23

<sup>1)</sup> H23～H25年度平均（入学年度ベース）

<sup>2)</sup> H26～H29年度平均（入学年度ベース）

〈表4-10〉社会人特別選抜による入学状況

	修士課程	博士後期課程
H26年度	0	9
H27年度	0	4
H28年度	2	15
H29年度	0	8